

アジアの女性と子どもネットワーク

AWC通信

継続の力

マリ・クリスティーン

「アジアの女性と子どもネットワーク」は1996年に設立し、20年間活動を続けて参りました。

先日、団体設立当初から現在までに実施したことを年ごとにまとめてみました。達成できた事と、足りなかったことを見つめる大変良い機会になりました。

本当に多くの方々のご協力をいただいてこそ、この20年間があった事に気づき、改めてみなさまへの感謝で一杯です。

1996年に団体を立ち上げた当初は、教育の機会を求めている山岳民族の親子に対して、学校建設をすれば目的を達成できると考えていました。

しかし実際、学校を建てるとそこに子どもが集まってきます。食べ物の確保が課題となり、勉強するための机や教科書、文房具、飲み水やトイレも足りない、排水をどうするか等、次々と課題が持ち上がってきました。

その一方で物理的な課題のみならず、子どもの人身売買やHIV/AIDSなどの社会を変えなければどうにもならない根本的な大きな課題にも直面することとなりました。

当初は思ってもいないような展開でしたが、「見て見ぬ振りは一生涯後悔する!」と、これらの課題の解決のために自分たちのできることに精一杯努力してきました。

タイで実施する国際協力事業に加えて、社会への発信も重要と、シンポジウム、展示、ワークショップの開催にも力を入れてきました。

団体設立当時、世界人口は53億人で、教育を受けられない子どもは1億4,000万人、児童労働に従事させられる子どもは2億5,000万人でした。現在、世界人口は73億人となりましたが、教育を受けられない子どもの数は5,900万人、児童労働に従事させられる子どもの数は1億6,700万人と、世界人口は増加していますが、子どもの状況は少しずつ良い方向に向かっています。各国政府や国連機関などの努力の効果であることはもちろんですが、子どもをめぐる私たちのようなNGOが継続して力を出してきた結果でもあると思います。

温かいお気持ちをお寄せ下さる多くの方々のご協力を頂きながら、これからも歩んでいきたいと思っています。



チャンパッタナースクールの子どもたちと

図書館建設プロジェクト



子どもたちのために働く村人

バーンメーランカムスクールでは、旧校舎の改築に伴い、これまで使用していた図書館が使えなくなりました。

貧困家庭が多い上、村に本屋はないので、子どもたちは好きな本を買って読むことはできません。寮生活をしている子どもは月曜日から金曜日まで学校で過ごすので、自由時間に本を読む図書館が絶対必要なため、建築に協力してほしいと要請がありました。

伊丹市に在住のご夫妻からご寄付のお申し出を受け、9月に建設資金を送金しました。建設資金が届いてすぐ、整地を始めたとの連絡がありました。

この事業は出来る限り村人を雇用して実施されています。出稼ぎに行かなくても現金収入を得ることができ、村の経済の活性化にも繋がるからです。

秋は農作業もあるので工事はゆっくりと進んでいましたが、11月終わり頃から、急ピッチで進み始めました。村人総出の工事です。

図書館には本棚と机、椅子のほかに天井には扇風機が取り付けられる予定です。本の購入代は神奈川県的女性グループからご寄付いただきました。

1月中旬には完成予定とのことで、私たちも楽しみにしています。

おなかいっぱいプロジェクト

7月末にタイで物乞いを厳しく取り締まる政策が出たことでチェンマイでも物乞い一掃作戦が展開されました。逮捕者も多く、ドロップインセンターの利用者の中にもこれを機にミャンマー側に帰って生活を立て直す決心をした家族が出てきたことで、一時期昼間にセンターを利用する子どもの数も減りました。しかし、物乞いをせずに時間を持て余す幼い子どもたち7~8人が毎日センターに通うようになり、あまり変わっていません。

また、親の逮捕により家族でスラムで暮らせなくなった兄弟4人が財団で生活することになりました。市内の中学校に入学手続きが完了していた上の2人は街中にあるドロップインセンターで暮らします。以前からセンターで暮らしている子どもと合わせると計4人となりました。この子どもたちには毎日3食準備する必要があります。

この4人の他にも日帰りの利用者は毎日訪れるため、センターでは、休日にも食事を提供します。休日には大きな子どもたちが中心になり、小さな子どもたちのために食事を作ります。小さな子の世話をすることで、他者に対する思いやりの気持ちを育て、みんなで楽しく食事できるようにと思っています。

(アーサーパッターナードック財団ボランティアスタッフ出羽明子さんのレポート)



食事中の子どもたち(ドロップインセンター)

HIV/AIDSとストリートチルドレン

7月2日、フォーラム南太田にて、アーサーパッターナードック財団で、長年ストリートチルドレンの子どもたちにアートセラピーなどの活動をされている出羽明子さんの活動報告会を開催しました。多くの方々にご来場いただき、質疑応答も熱のこもった会となりました。

特に印象に残ったのは、HIV感染に関する話です。最近ではよい薬があるので、感染してもしっかり薬を飲んで規則正しい生活をしていれば、命の心配をしなくても大丈夫ですが、チェンマイのストリートに暮らす子どもたちは依然として感染すると死に繋がるケースが多いそうです。

移民で国籍を持たないために医療にアクセスすることが難しい、規則正しい生活ができない、自分を大切に思えず自暴自棄になっていることなどが原因です。

アーサーパッターナードック財団では、ピアエデュケーターを育成し、子どもたちの民族の言葉を使っているアクティビティやアートを使った啓発教育を実施して、子どもたちが性産業に取り込まれないようにするとともに、被害を受けた子どもの保護にも努めています。



参加者アンケートに「この話を聞いて今、私にできることは皆に伝えることだと思った」とありました。日頃は学校や仕事で忙しく現地ボランティアをすることはなかなか難しいですが、まずは何が起きているか知ることが第一歩です。

会場で日本人のセックスツーリストがチェンマイでストリートチルドレンを買春し、タイ警察に逮捕された事件(2016年5月)の記事も配布しました。日本人として、このようなことが起こらないように、法律の整備、意識改革キャンペーンなど、日本国内の活動もしっかり行いたいと思いました。

書き損じはがき ご寄付のお願い

「おなかいっぱいプロジェクト」では、書き損じはがき2枚で3食分の給食食材費になります。

ストリートチルドレンの子どもたちがご飯をおなかいっぱい食べられるように、お手元の書き損じはがきや未使用切手をぜひAWC事務局までお送りください。子どもたちの健やかな成長のためにご協力をよろしくお願いします。

AWC事務局：〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC内

かいこプロジェクト

バーンメーランカムスクールでは2013年のかいこプロジェクト開始と同時に桑を植えましたが、山の中で朝夕の気温の差が大きい上、土地がやせているために成長するまでかなり時間がかかりました。熱心な先生と生徒に保護者が加わり懸命に世話をした結果、ようやく500本の桑が育ったので夏に試験養蚕を行いました。

養蚕のための小屋はこれまで農業の授業に使用していた建物を改装し、幼虫を王立養蚕センターからいただいて8月31日から小学4年生と主に中学3年生の生徒が担当して養蚕を開始しました。

見る見る間に大きくなるかいこに子どもたちは興味津々で、一生懸命に世話をしました。9月中旬には糸を吐き始め、9月21日には収穫しました。

約2kgの繭ができたそうです。

子どもたちが養蚕の技術を学び、学校を中心として養蚕を行い、村の産業に育てることができれば、経済発展に繋がり子どもたちの状況が少しでも良くなるのではないかと期待しています。



初めての養蚕に興味深々



こんなに収穫できました

ガールズサンタ

チェンライ県ムアン郡フエイチョンブー地区にあるコックノーイスクールの寮に住む子どもたちのために、同県ムアン郡メエヤオ地区に住むアカ族の子どもたちがクリスマス会を企画しました。今まではボランティアを「される」側だった子どもたちが、自分たちよりも困難な状態にある子どもを喜ばせようと歌や音楽を披露したり、ゲームをして楽しい時間を過ごすために、毎日集まって準備しています。

コックノーイスクールの寮に住む子どもは、ミャンマー出身のアカ族の子どもがほとんどです。親はミャンマーや、チェンライの街で日雇い労働などを行っています。コックノーイスクールは山の中でアクセスが非常に悪く、雨季では孤立してしまうようなところudur。土日にも家に帰ることはできないので、家族と会えるのは長期の休みの時だけという子どもも多くいます。



クリスマス会を主催する若者たち

子どもたちの家庭は皆貧困で、授業は無料ですが、文房具の購入や、歯ブラシやタオルなどの身の回りの品をそろえることも難しい状況です。12月17日のクリスマス会では、コックノーイスクールの寮で暮らす子どもたちが必要としているものをプレゼントとして配布します。

このクリスマス会の費用は、横浜女学院の有志の方々が文化祭でAWCの商品を販売して下さった売上金です。「ガールズサンタ」として、横浜の高校生が、タイとミャンマーのアカ族の子どもたちの懸け橋となりました。

横浜女学院の皆さま、グラフマデー！（アカ語でありがとう）

被災地の女性と子どものために（熊本地震）

4月14日21時26分に熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生、その28時間後、4月16日の午前1時25分にマグニチュード7の大地震が起きました。長引く余震は被災地の方々に大きな負担がありました。

私たちは4月18日より熊本地震の緊急支援募金を開始し、熊本からの要請に応じて、避難所や自主避難をしている女性たちが必要としている生活物資、女性や子どもを狙った性暴力やDVなどの防止のための、防犯ブザーやコンパクトライトなども送りました。皆様のご協力に御礼申し上げます。



黒川地区で避難している方々
写真提供：長野良市様

東日本大震災から5年9か月

私たちは東日本大震災発災直後から陸前高田市の子育て支援団体「きらりんきっず」を応援しています。「きらりんきっず」から、近況を知らせる手紙と写真が届きました。

アジアの女性と子どもネットワークの皆さんからの温かいご支援を頂き心より感謝申し上げます。

地域の方々や子どもの喉を潤し、お母さん方に料理教室やティータイムなど多くの機会に美味しい水を使わせて頂いています。

2011年の東日本大震災から5年9か月となりましたが、想像をはるかに超えた被害が、あまりに大きすぎたため未だ仮設住宅で約2000名の方々が生活しておられ、きらりんきっずへきている親子の中にも隣の声が聞こえ、プライバシーもないような方がいらっしゃいます。

震災により少子高齢化が加速し、生まれてくる子どもの数も年間100人前後となっています。

そのような環境のなか、子育て中の母親が孤立しないよう、何が今必要なのか、目線の高さを同じくして子育て中の母親でもあるスタッフ全員が当事者意識をもって、安心、安全なほっと一息つける居場所作りをと心かけ親子の居場所作りや地域活動を展開しています。今年度も沢山の笑顔に出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

少しずつ変化してきている状況ですがまだ復興への道のりは遠いと感じます。これからも今できることをいっぱい進んでいきたいと思いますので、応援をよろしくお願いいたします。



親子揃ってきらりん運動会

ご寄付・ご協力御礼 2015年12月16日～2016年12月15日 (敬称略・順不同)

【AIDS孤児里親基金】 伊藤たま江、齊藤徹、阿部潔、神保隆二、高橋清実、小島みゆき、村田順子、幼き聖マリア修道会、花谷泉、加藤静恵、佐々木雅祥・律、山本良徳、増井俊樹、武井晴子、澤渡好子、相楽裕子、岡本洋一、野澤一良、支援キルトの会ふーぶ、巽司、出羽明子、原梓、マリ・クリスティーン、山本博子

【おなかいっぱいプロジェクト】 川口幸博、郷古理加、青山佳子、柳原秀子、佐藤志津子、齊藤徹、阿部潔、田中雅明、吉岡啓子、日比三枝子、小林みなえ、佐藤二三子、菊池ヨネ子、大濱悦子、神保隆二、小島みゆき、大江泰子、高品都、佐々木雅祥・律、飯田綾、北爪一夫、沖津久美子、丸山ヨシ子、原みつよ、中村田鶴子、尾形登志雄、五十嵐千恵子、巽司、増井俊樹、加山礼子・影一、鈴木勇、大橋真理子、加藤弘子、早川すみえ、恵津子ジュリエット、岡部淑夫、竹内知珠子、熊谷真也、半田あや、原輝美、堀江五十鈴、福島生子、支援キルトの会ふーぶ、川口幸博、出羽明子、原梓、落合貴美恵、安藤芳子、マリ・クリスティーン、

【かいこプロジェクト】 森川洋子、岩本雅子、阿部潔、堀江トキエ、岡部淑夫、大江泰子、高品都、佐々木雅祥・律、増井俊樹、金井敏、五十嵐千恵子、巽司、花谷泉、大野佐和子、支援キルトの会ふーぶ、出羽明子、原梓、山本博子

【AWC基金】 小池田しげ子、山本佳世、寺尾和子、黒須春美、増井俊樹、吉池和子、山本美恵子、酒井ユリ子、田口美恵子、赤間幸子、安本隆子、斉藤恵子、大橋律子、原みつよ、笹田克子、栗田知、阿部潔、伊藤康子、菊池尚、秋元千代子、阿部真紀、武井雅子、高橋誠、朝廣玲子、川辺次郎、増井俊樹、八島恵理、尾崎知子、常光明子、伊藤源子、佐藤利明、佐藤真吾、内田りえ子、坂口育子、矢ヶ崎佐和子、清水雅子、原梓、落合貴美恵、安藤芳子、マリ・クリスティーン

【熊本地震】 増井俊樹、板垣慈、八島恵理、増井秀昭、花谷泉、丸山ヨシ子、阿部潔、清水雅子、安藤芳子、マリ・クリスティーン

【東日本大震災支援】 増井俊樹、阿部潔、神保隆二、繁村弘子、高嶋威男、山本佳世

【トライブラリープロジェクト】 森カスミ、阿部潔、大江泰子、佐々木雅祥・律

【ガールズサタ】 横浜女学院

【図書館建設】 竹田英一・啓子、Women for 葉山

【書き損じはがき】 瀧田久美子、橋本美史、山本久美子、佐藤志津子、大塚久仁子・南美、茨木夢子、苗代碧、伊東喜代治、後藤紀久代、菊池ヨネ子、橋田和子、鶴田彦彦、林恵子、高田ミチ子、堤澄子、村田順子、高橋誠、金田むつみ、嶋岡由史、関谷裕子、中村田鶴子、高安照代、朝廣玲子、岡部淑夫、重原文明、巽司、後藤紀久代、高村敦子、満倉みち子、池田碧、杉山澄江、仁藤里香、ガールスカウト山梨県連盟、堀江昭、金子セツ子、半田あや、村井亜希子、花谷泉、櫛崎佳代子、半田あや、小林恵子、宮崎恵子、内山草、東幸子、小池田しげ子、阿部潔、大久保周子、佐藤真吾
※記入漏れ、間違いなどがございましたら事務局までご連絡下さい。

ご寄付のお願い

アジアの女性と子どもネットワークの事業は皆さまのご寄付で実施しています。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

郵便振替 00200-2-4109
口座名：AWC